

経済指標

1. 経済指標で見る「地域経済情勢」

◆ 日本経済（内閣府「月例経済報告」[2024年7月]）

景気は、このところ足踏みもみられるが、緩やかに回復している

個人消費 ※（ ）内は、2024年4月以降の判断変化

- ・ 持ち直しに足踏みがみられる（変化なし）

企業活動

- ・ 生産は、このところ持ち直しの動きがみられる（5月に判断引き上げ）
- ・ 業況判断は、改善している（変化なし）
- ・ 設備投資は、持ち直しの動きがみられる（変化なし）

◆ 和歌山県経済 ◆

和歌山県経済は、個人消費・企業活動ともに弱さが見られる

個人消費

- ・ 百貨店・スーパー販売額（6月）は、好天が多く、前年を上回った
- ・ 新車販売台数（軽自動車[乗用]含む、6月）は、7か月連続で前年を下回った
- ・ 新設住宅着工戸数（6月）は、4か月連続で前年を上回った

企業活動

- ・ 鉱工業生産指数（季節調整値、5月）は、2か月連続で上昇した
- ・ 公共工事請負金額（6月）は、2か月ぶりに前年を下回った
- ・ TDB景気DI（6月）は、2か月連続で下降した

◆ 大阪府経済 ◆

大阪府経済は、企業活動・雇用環境において
持ち直しの動きに一服感が見られる

個人消費

- ・ 百貨店・スーパー販売額（6月）は、2年9か月連続で前年を上回った
- ・ 新車販売台数（軽自動車[乗用]含む、6月）は、6か月連続で前年を下回った
- ・ 1月～6月累計での新設住宅着工戸数は、前年同期比0.2%増

企業活動

- ・ 鉱工業生産指数（季節調整値）は、全国に比べて低い水準にある
- ・ 4月～6月累計での公共工事請負金額は、前年同期比22.4%増
- ・ TDB景気DI（6月）は、3か月連続で下降した

経済指標

2. 経済指標で見る「和歌山県経済」

和歌山県経済は、個人消費・企業活動ともに弱さが見られる

和歌山県に関する経済指標の概況（6月指標を中心に）

《個人消費》

- 百貨店・スーパー販売額（6月）は、好天が多く、前年を上回った。
- 新車販売台数（軽自動車[乗用]含む、6月）は、7か月連続で前年を下回った。
- 新設住宅着工戸数（6月）は、4か月連続で前年を上回った。

《企業活動》

- 鉱工業生産指数（季節調整値、5月）は、2か月連続で上昇した。
- 公共工事請負金額（6月）は、2か月ぶりに前年を下回った。
- TDB景気DI（6月）は、2か月連続で下降した。

《その他》

- 消費者物価指数（和歌山市）は、総合、コアコアCPIともに緩やかに上昇。
- 有効求人倍率（6月）は、0.03ポイント上昇し、1年前の水準まで回復。
- 家計消費支出（除く住居等、5月）は、2か月連続で前年を下回った。

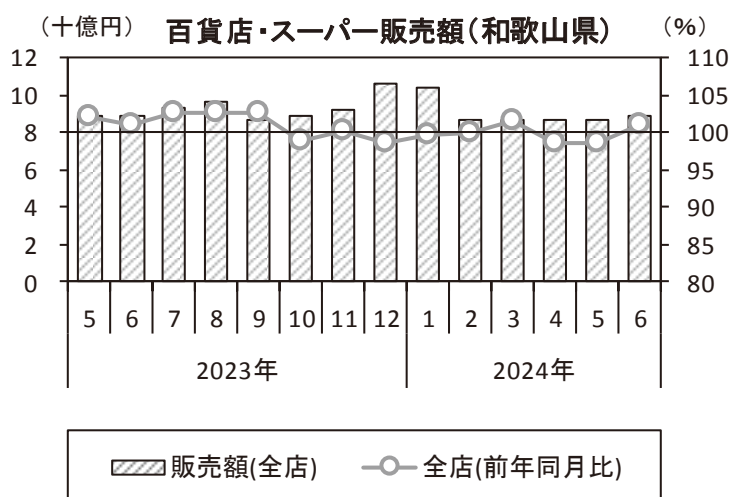
和歌山県の経済指標の概況変化（前年同月との比較 ※一部は前月比較）

		2023年										2024年					
		5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6		
個人消費	百貨店・スーパー販売額	○	○	○	○	○	●	○	●	●	—	○	●	●	○		
	新車販売台数(登録車、軽自動車[乗用]含む)	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●	●	●	●		
	新設住宅着工戸数	●	●	○	●	●	○	●	●	●	●	○	○	○	○		
	家計消費支出(除く住居等、二人以上の世帯)	○	○	○	●	○	●	●	●	○	●	○	●	●			
企業活動	鉱工業生産指数 ※前月比	○	●	○	●	●	○	●	●	○	○	●	○	○			
	公共工事請負金額	●	●	○	●	○	○	○	○	○	○	●	●	○	●		
	TDB景気DI ※前月比	○	○	○	●	○	●	○	●	●	—	○	○	●	●		
物価	消費者物価(コアコアCPI、和歌山市)※前月比	○	—	○	○	●	○	○	●	○	●	○	○	○	●		
雇用	有効求人倍率(季節調整値)	○	●	●	●	●	●	●	●	●	—	●	●	●	—		

(注) ○：上昇(増加) —：横ばい ●：下降(減少)、空白はデータ未発表

百貨店・スーパー販売額

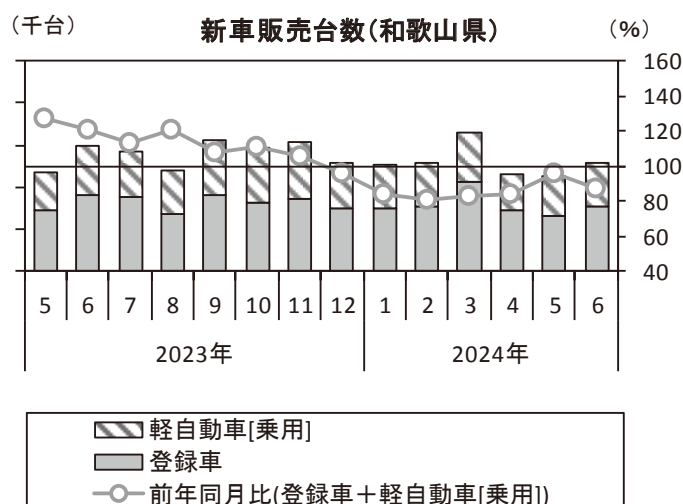
百貨店・スーパー販売額（6月）は、前年同月比1.1%増となり、3か月ぶりに前年を上回った。近鉄百貨店和歌山店の販売額（6月）についても、前年同月比7.4%増となり、3か月ぶりに前年を上回った。例年に比べて梅雨入りが遅く、好天に恵まれた点や前年に比べて土曜・日曜日数がそれぞれ1日多かったことなどが販売額増加に寄与したものと考えられる。ただし、コンビニエンスストア販売額（6月）を見ると、4か月連続で前年を下回る水準となるなど、家計の節約傾向が強まっている。



(資料)経済産業省「商業動態統計調査」

新車販売台数

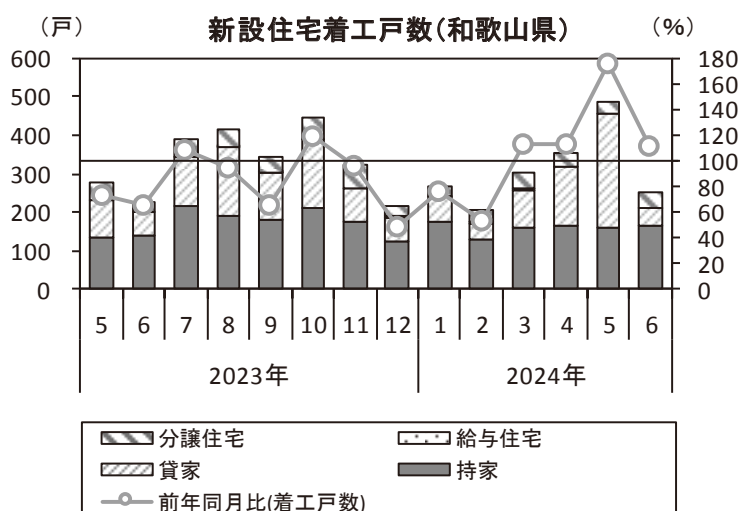
新車販売台数（軽自動車[乗用]含む、6月）は、前年同月比12.9%減となり、7か月連続で前年を下回った。前年12月からの一部自動車メーカーにおける出荷停止（型式認証不正が要因）の影響が緩和に向かう一方で、6月初旬には複数のメーカーにおいて新たな認証不正が見つかり、一部車種の出荷が停止となった。販売台数への影響については、先行き不透明感が強い。



(資料)一般社団法人全国軽自動車協会連合会ウェブサイトならびに和歌山県自動車販売協会資料

新設住宅着工戸数

新設住宅着工戸数（6月）は、前年同月比12.4%増（4か月連続で前年を上回る）。2022年後半以降、住宅価格の上昇などもあり、着工戸数は減少傾向にあったが、足下では底打ちの兆しも見られる。1月～6月累計での着工戸数を地域別に見ると、岩出市で前年同期比28.4%増、和歌山市で同19.1%増、田辺市で同7.4%増となっている。

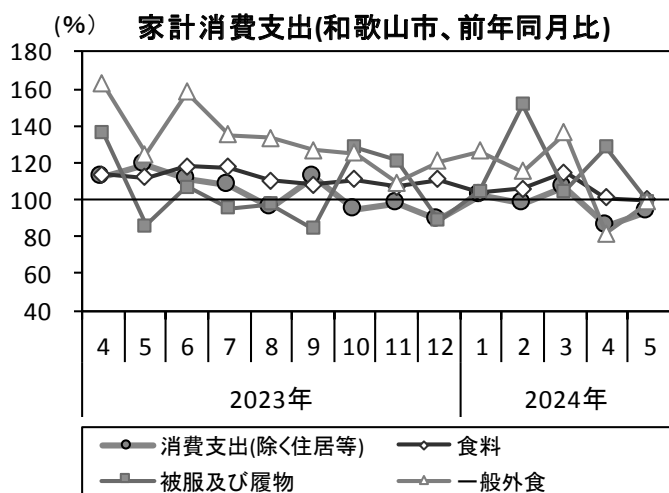


(資料)国土交通省「住宅着工統計」

家計消費支出

家計消費支出（除く住居等、5月）は、前年同月比6.4%減となり、2か月連続で前年を下回った。授業料・補習教育等の教育費、自動車等購入費など変動の大きい費目において支出額が大きく減少しており、このことが家計消費支出全体の主な減少要因となっている。また、食料品価格の上昇が続く中で、食料支出額の増加率が鈍化しており、節約志向の高さをうかがわせる内容となっている。

※調査対象の世帯が約90と少ない点に留意

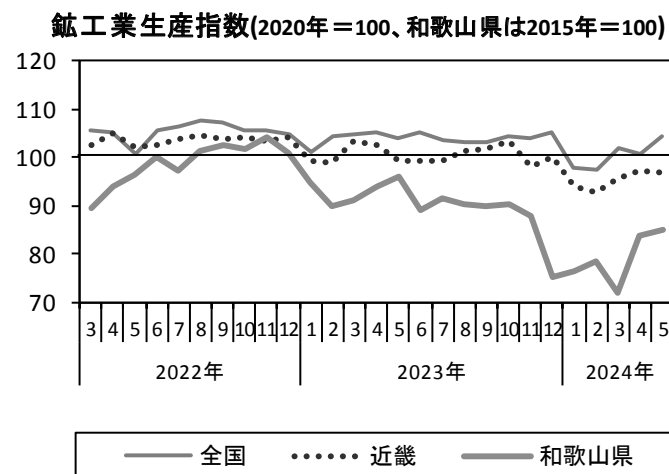


(資料)総務省「家計調査」(二人以上の世帯)

鉱工業生産指数

鉱工業生産指数（5月）は84.9となっており、2か月連続で上昇した。ENEOS和歌山製油所が前年10月に操業を停止したことで、化学工業、石油・石炭製品工業の生産指数が大幅に下降し、3月には鉱工業全体で71.7の水準まで低下していた。足下では、主力業種であるはん用機械工業、鉄鋼業で生産指数が上昇している。

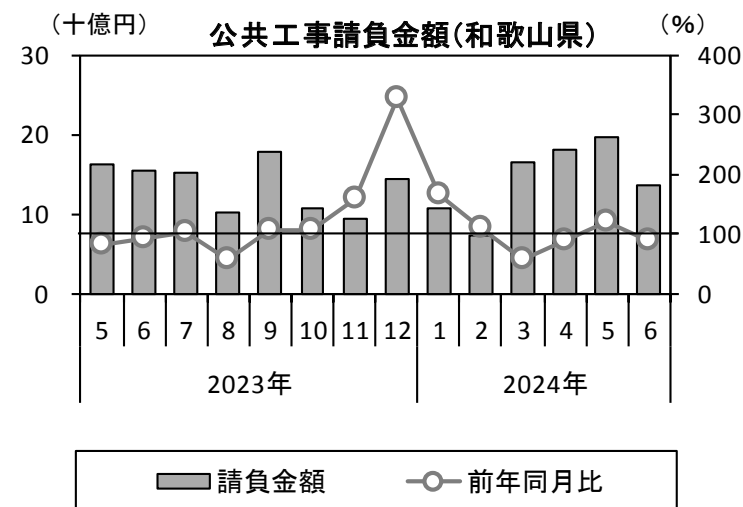
全国については、自動車メーカーにおける型式認証不正問題の影響が長引く一方で、世界的なIT需要の回復を受けて電子部品・デバイスの生産指数は持ち直し傾向にある。



(資料)経済産業省「鉱工業指数」、近畿経済産業局「鉱工業生産動向」
和歌山県調査統計課ウェブサイト

公共工事請負金額

公共工事請負金額（6月）は、前年同月比12.5%減となり、2か月ぶりに前年を下回った。2021年度以降、減少傾向にある請負金額だが、4月～6月累計での請負金額では、串本地区、岩出地区、橋本地区、湯浅地区などで増加している。その一方で、前年同時期に新庁舎建設関連の大型工事が見られた御坊地区、田辺地区では請負金額が減少している。



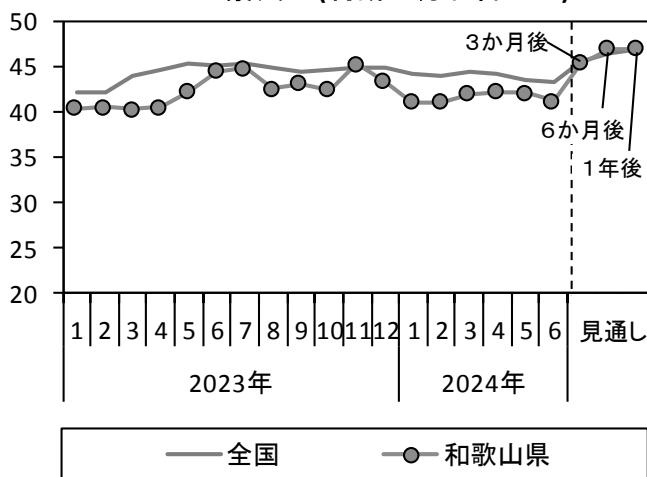
(資料)西日本建設業保証(株)「公共工事動向」

景況感 (TDB 景気 DI)

TDB景気DIは、(株)帝国データバンクが月次で実施している景気動向調査から算出された景況感を表す値である。この値が50を超えると、現在の景気を「良い」とする事業者数が「悪い」とする事業者数を上回る。

6月の景気DIは、2か月連続で下降した。大企業の景気DIが改善する一方で、中小企業、小規模企業の景気DIは2か月連続で下降している。業種別では、製造業の景気DIが3か月連続で下降している。

TDB景気DI (判断の分れ目は50)

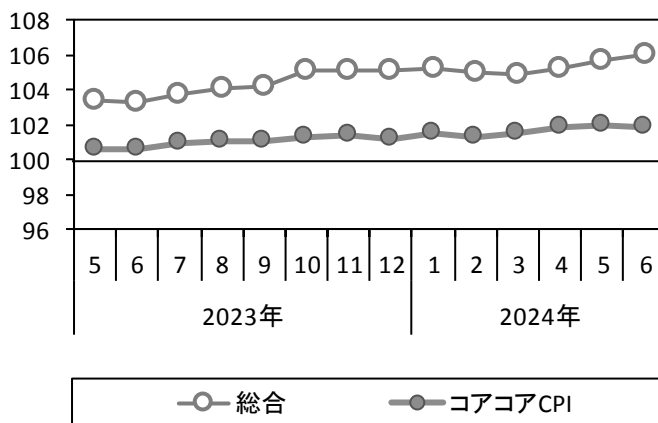


(資料)(株)帝国データバンク

消費者物価指数

消費者物価指数（和歌山市、6月）は、総合が3か月連続で上昇する一方、コアコアCPIは4か月ぶりに下降した。2023年は顕著な上昇傾向の見られた消費者物価だが、足下ではコアコアCPIの上昇の勢いが鈍化している（教養娯楽サービス価格などが低下）。総合指数の上昇要因はエネルギー価格である。政府の電気・ガス代の負担軽減策の補助額が減額されたこともあり、エネルギー価格が上昇した（8月～10月においては、再び軽減策が実施される）。

消費者物価指数(和歌山市、2020年＝100)

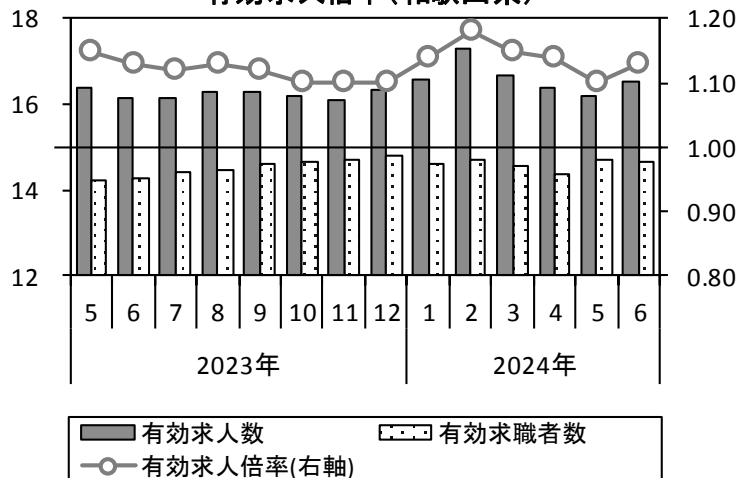


(注)コアコアCPIは食料(酒類を除く)及びエネルギーを除いた物価指数。
(資料)総務省「消費者物価指数」

有効求人倍率

有効求人倍率（6月）は、前月から0.03ポイント上昇し、1年前の水準（1.13倍）まで回復した。有効求職者数が横ばいで推移する中、有効求人数が4か月ぶりに増加した。前年後半以降、事業主都合による離職で求職を開始した人数が増加し、雇用保険受給者実人員が増えていたが、状況は改善している。また、新規求人数についても、ほぼ前年並みの水準で推移している。このような状況を受けて、和歌山労働局では、「雇用情勢は、求人が求職を上回る状況が続いており、緩やかに持ち直しの動きがみられるが、求人の一部に足踏み感がある。引き続き、物価上昇等が雇用と与える影響に注意する必要がある」としている。

(千人) 有効求人倍率(和歌山県)



(資料)厚生労働省「一般職業紹介状況」

経済指標

3. 経済指標で見る「大阪府経済」

大阪府経済は、企業活動・雇用環境において
持ち直しの動きに一服感が見られる

大阪府に関する経済指標の概況（6月指標を中心に）

《個人消費》

- 百貨店・スーパー販売額（6月）は、2年9か月連続で前年を上回った。
- 新車販売台数（軽自動車[乗用]含む、6月）は、6か月連続で前年を下回った。
- 1月～6月累計での新設住宅着工戸数は、前年同期比0.2%増。

《企業活動》

- 鉱工業生産指数（季節調整値）は、全国に比べて低い水準にある。
- 4月～6月累計での公共工事請負金額は、前年同期比22.4%増。
- TDB景気DI（6月）は、3か月連続で下降した。

《その他》

- 消費者物価指数（大阪市、6月）は、コアコアCPIが6か月ぶりに下降。
- 有効求人倍率は、下降基調が続いている。
- 家計消費支出（除く住居等、5月）は、3か月連続で前年を上回った。

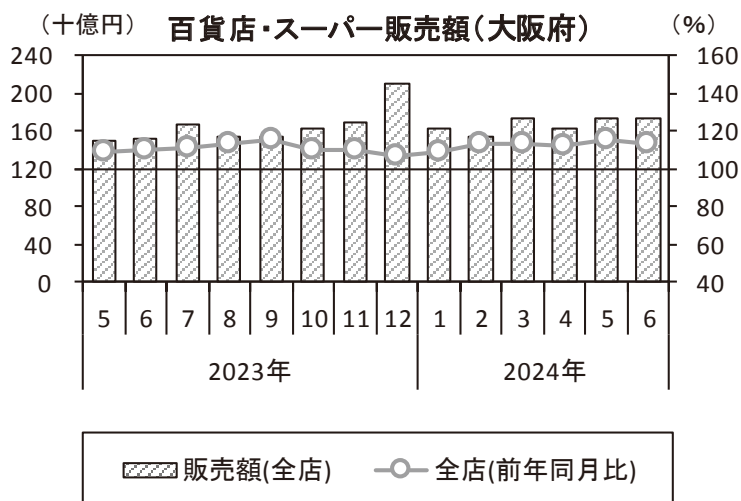
大阪府の経済指標の概況変化（前年同月との比較 ※一部は前月比較）

		2023年								2024年					
		5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
個人消費	百貨店・スーパー販売額	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	新車販売台数(登録車、軽自動車[乗用]含む)	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●	●	●
	新設住宅着工戸数	○	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	○	○	●
	家計消費支出(除く住居等、二人以上の世帯、大阪市)	●	○	○	○	○	●	●	●	○	●	○	○	○	
企業活動	鉱工業生産指数 ※前月比	●	●	○	●	○	●	●	○	●	●	○	●	○	
	公共工事請負金額	○	○	○	●	○	●	○	○	●	●	●	○	●	○
	TDB景気DI ※前月比	○	●	○	●	●	○	●	○	●	●	○	●	●	●
物価	消費者物価(コアコアCPI、大阪市) ※前月比	○	●	○	○	－	●	○	●	○	○	○	○	○	●
雇用	有効求人倍率(季節調整値)	○	○	○	○	－	●	●	●	●	●	●	●	●	●

(注) ○：上昇(増加) ー：横ばい ●：下降(減少)、空白はデータ未発表

百貨店・スーパー販売額

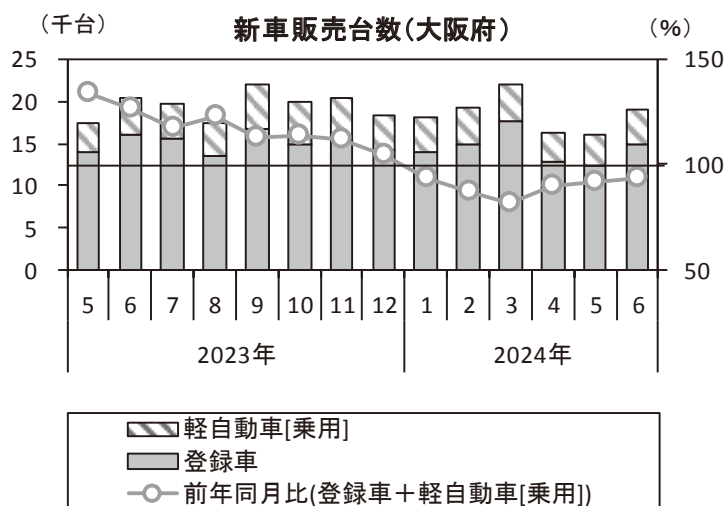
百貨店・スーパー販売額（6月）は、前年同月比13.2%増となり、2年9か月連続で前年を上回った。業態別では、百貨店の販売額が前年同月比21.5%増。増加率は全国（6.9%）を大きく上回る。高額品消費増や訪日外国人による消費増が背景にあるものと考えられる。スーパーの販売額については、前年同月比3.9%増となっている。例年に比べて梅雨入りが遅れ、好天が続いた点や、土曜・日曜の日数がそれぞれ1日多かった点が販売額増につながった。



(資料)経済産業省「商業動態統計調査」

新車販売台数

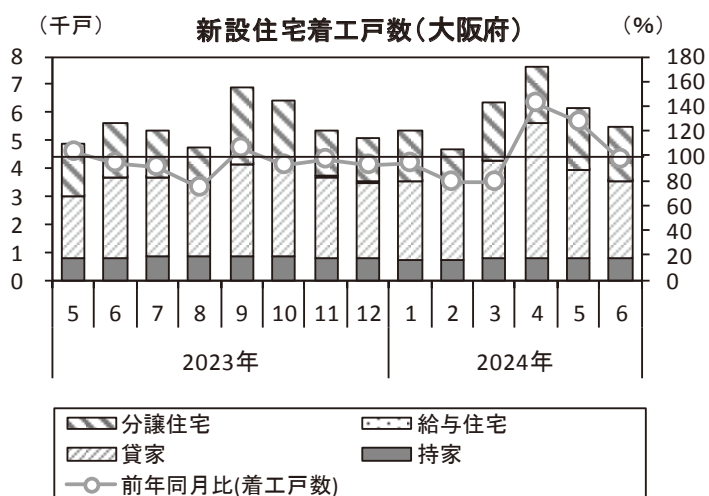
新車販売台数（軽自動車[乗用]含む、6月）は、前年同月比6.9%減となり、6か月連続で前年を下回った。前年12月からの一部自動車メーカーにおける出荷停止（型式認証不正が要因）の影響が緩和に向かう一方で、6月初旬には複数のメーカーにおいて新たな認証不正が見つかり、一部車種の出荷が停止となった。販売台数への影響については、先行き不透明感が強い。



(資料)一般社団法人 全国軽自動車協会連合会ウェブサイトならびに東京自動車販売協会「新車販売台数(登録車)」

新設住宅着工戸数

新設住宅着工戸数（6月）は、前年同月比2.4%減となり、3か月ぶりに前年を下回った。1月～6月累計での着工戸数は前年同期比0.2%増。府内の着工戸数の半数以上を占める「貸家」の1月～6月累計での着工戸数は前年同期比11.6%減、「分譲住宅」が同18.5%増、「持家」が3.6%増となっている。マンション等の「分譲住宅」において、前年以降、増加傾向が見られる。



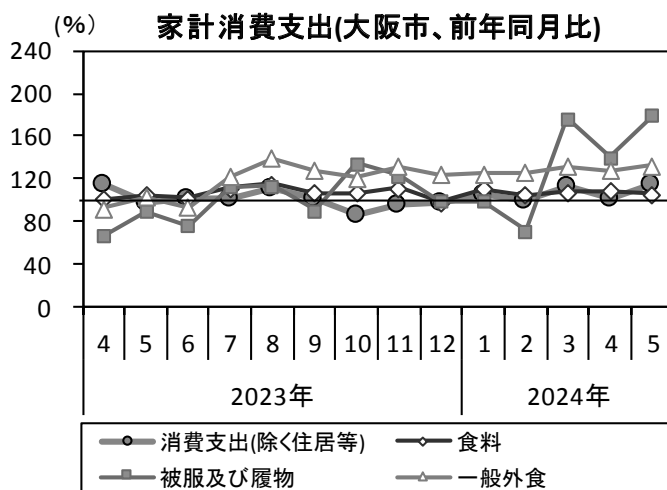
(資料)国土交通省「住宅着工統計」

家計消費支出

家計消費支出（除く住居等、5月）は、前年同月比14.9%増となり、3か月連続で前年を上回った。生鮮野菜、調理食品、外食を中心に食料支出が増加しており、パック旅行費・月謝類などの教養娯楽サービス向けの支出も増えている。

先行きについては、賃上げや政府による定額減税を背景に、家計消費は増加傾向を維持するものと考えられる。

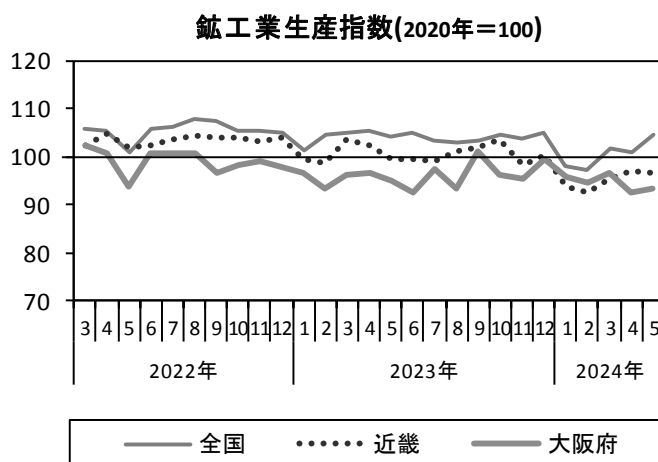
※調査対象の世帯が約120と少ない点に留意



(資料)総務省「家計調査」(二人以上の世帯)

鉱工業生産指数

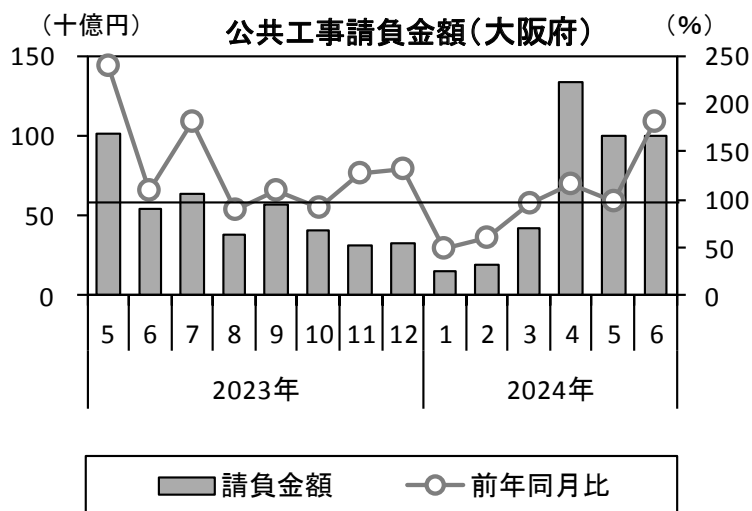
鉱工業生産指数（5月）は、前月から0.7ポイントの上昇となった。主力業種である鉄鋼業で指数が3か月連続で上昇し、食料品工業の指数は比較的高い水準で推移している。その一方で、機械工業（ショベル系掘削機）、化学工業（医薬品・化粧品）については、指数が低い水準で推移しており、全体指数も全国のそれと比べて低水準にある。



(資料)経済産業省「鉱工業指数」、近畿経済産業局「鉱工業生産動向」
大阪府「大阪の工業動向」

公共工事請負金額

公共工事請負金額（6月）は、前年同月比82.0%増となり、2か月ぶりに前年を上回った。4月～6月累計での請負金額は前年同期比22.4%増と好調で、2021年度以降の増加基調が継続している。発注者別に4月～6月累計での請負金額を見ると、国、府、府内市町村発注の請負金額がいずれも前年同期を上回っている。



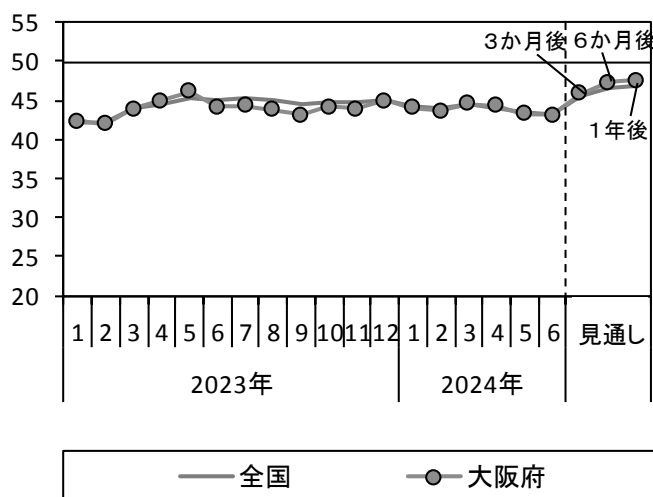
(資料)西日本建設業保証㈱「公共工事動向」

景況感 (TDB 景気 DI)

TDB景気DIは、(株)帝国データバンクが月次で実施している景気動向調査から算出された景況感を表す値である。この値が50を超えると、現在の景気を「良い」とする事業者数が「悪い」とする事業者数を上回る。

6月の景気DIは3か月連続で下降。訪日外国人の増加により、サービス業の景気DIは高い水準にあるものの、卸売業、運輸・倉庫と同様に3か月連続で下降している。また、製造業の景気DIは5か月ぶりに40を下回った。万博開催による景気改善を期待する声も聞かれるが、帝国データバンクは「当面、一進一退の状況が続く見通し」としている。

TDB景気DI(判断の分れ目は50)



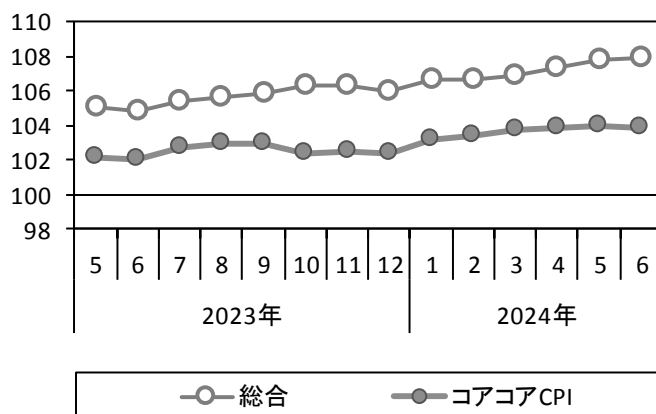
(資料)(株)帝国データバンク

消費者物価指数

消費者物価指数（大阪市、6月）について、総合は6か月連続で上昇する一方、コアコアCPIは6か月ぶりの下降となった。

政府の電気・ガス代の負担軽減策の補助額が減額されたこともあり、エネルギー価格が上昇した（8月～10月においては、再び軽減策が実施される）。その一方で、食料品や通信、教養娯楽サービス等の価格については、上昇率が鈍化している。

消費者物価指数(大阪市、2020年=100)

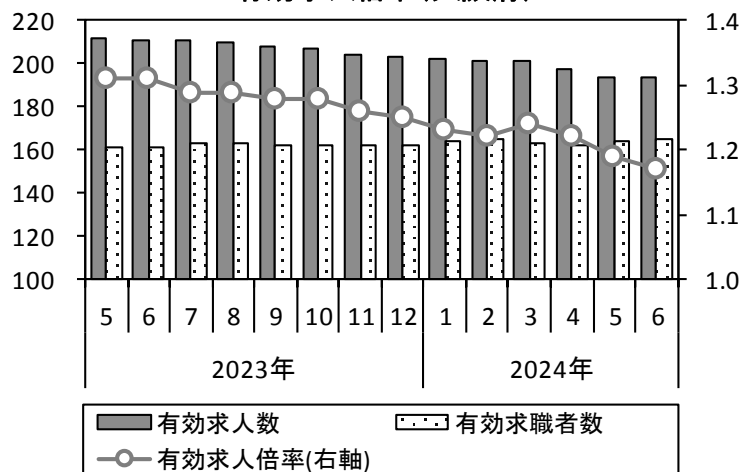


(注)コアコアCPIは食料(酒類を除く)及びエネルギーを除いた物価指数。
(資料)総務省「消費者物価指数」

有効求人倍率

有効求人倍率（6月）は、前月から0.02ポイント低下し1.17倍（1年3か月ぶりの低水準）となっており、前年半ば以降、下降基調が続いている。有効求職者数が増加傾向にある中で、有効求人数が減少している。また、新規求人数は前年同月比で10か月連続での減少となっている。建設業、製造業、運輸業、商業、医療・福祉などほぼ全ての産業で新規求人数が減少している。このような状況について、大阪労働局は「現下の雇用失業情勢は、改善の動きが弱まっている」と判断している。

(千人) 有効求人倍率(大阪府)



(資料)厚生労働省「一般職業紹介状況」